



東近江

あいとうふくしモール

# ここに来れば安心。暮らし支える施設が集合 地域の「食」と「ケア」と「エネルギー」をサポート

2005年の合併で東近江市となった旧愛東町は、資源循環リサイクルの「菜の花プロジェクト」など、住民が自分たちの力で地域の課題解決に取り組む動きが活発な地域だ。そんな地域に2年前完成した「あいとうふくしモール」が今注目を集めている。あいとうふくしモールが目指すのは、「安心のよりどころ」だ。

## 「ふくしモール」って何？ 地域の暮らしの応援拠点

東近江市小倉町、旧愛東町だったこの地域に、「あいとうふくしモール」がオープンしたのは、2013年4月。一つの敷地内に障がい者の社会参加を支援する特定非営利活動法人あいとう和楽が運営する「田園カフェこむぎ」、特定非営利活動法人NPO結の家が運営する、高齢者の生活支援施設「結の家」、株式会社あいとうふくしと工房が運営する農家レストラン「ファームキッチン野菜花」の3つの施設が並ぶ。

「ショッピングモールのように多様なサービスを提供する事業所が集まり、

そこに行けば、暮らしの困りごとが解決

できる場所を目指して、「ふくしモール」と名付けた。それぞれの事業所が専門性を発揮して連携し、高齢になっても障がいがあっても、どのような状態になっても安心して暮らせる拠点づくりに取り組んでいる」とあいとうふくしモール運営委員会代表の野村正次さんは説明する。

## 食と介護の安心を提供 各施設が工夫を凝らす

3つの施設のサービスや機能を紹介すると、田園カフェこむぎは、店内にパン工房を備え、スイーツやドリンク、軽食を提供。デイサービスなどへの配食

サービスも行っている。また、併設の「薪工房 木りん」では、里山保全で伐採された木材を、薪に加工し販売。この薪はモール内の3施設で使用する薪ストーブの燃料としても利用されている。これらの作業には、知的障がいを持った人たちが従事している。

結の家はデイサービスセンター、訪問看護ステーション、ケアプランセンターからなり、緊急ショートステイにも対応可能。介護を必要とするようになっても、住み慣れた家や地域で過ごせるように、24時間体制で高齢者とその家族の支援を行っている。

ファームキッチン野菜花では、地元で採れた旬の野菜・果物を使い、地元在住の主婦たちが調理した料理を提供している。スタッフは開店の2年前から、フードコーディネーターに学び、飲食業のプロとしての調理技術やノウハウを学び準備した。郷土料理を取り入れた月替わりのランチなどが好評で、昼食時は女性客



「薪工房 木りん」で作られた薪をモール内の駐車場で保管している

を中心にはば満席状態。配食サービス、弁当・惣菜、オリジナルカレールーなどの加工品の販売も行っている。

## 「一輪車の市」、エネルギー自給 「困りごと」の解決」など、多様な連携

各事業所が連携し、モール全体で取り組む事業も活発だ。駐車場スペースで2カ月に1回のペースで開催している「もったいないやりとり市」は、去る9月で12回目を迎えた。これは、地域の高齢者を主とした出展者が作業用の一輪車を自分の店として、畑で採れた野菜や惣菜、漬け物、手芸品などを販売するイベントで、地元の高校生によるカフェなども設けられ、地域のなごやかな交流



焼きたてパンが評判の「田園カフェ こむぎ」。店内の椅子等はあいとう和楽の製作

の場になっている。

また、薪ストーブの使用などエネルギー自給への取り組みも重要な連携事業になっている。各施設の屋根に太陽光パネルを取り付け、発電した電気を電力会社へ売電している。

この太陽光発電施設の設置にあたっては、会員を募って資金を集めた。売電によって得た利益を年1回精算し、会員に配当として分配している。その内の2割をモールに寄付してもらい、残りは東近江市内で使える地域商品券「三方よし商品券」で支払っている。売電益を、地域の中で循環させて地域経済の活性化につなげることが狙いだ。

10月にスタートした連携事業「ほんな



24時間体制で高齢者とその家族のケアを行う「結の家」

ら堂」は、暮らしのちょっとした「困りごと」を、地域の方で支え合い、解決するもの。モールのコーディネーターが、利用者から買い物代行、庭の草刈りなど、暮らし全般に関わる相談事を受け付け、対応できるサポーターに依頼し解決を図っている。今後、自立した事業として確立していくことを目指し、さまざまな生活支援の技術を教えるサポーター養成講座も実施している。

## 「こんな町ならきつと楽しい！ 妄想」を現実化する構想力

「福祉、医療、環境、農業、まちづくりなどの幅広い分野の仲間が集まり、『こんなことができたらいいな』こんな町なら



ランチメニューは季節の野菜に合わせて毎月変更する「ファームキッチン野菜花」

楽しいな」と意見を出し合い、「妄想」を膨らませた中から、ふくしモールの構想がまとめられた。地域にあるものを活用し、モノやカネを地域で循環することで、互いに元気になり、人と人のつながりが広がっていくことを願っている。そのためには、今後はさらに、モールの各事業所がそれぞれの事業を強化することが必要だ。それが連携事業の充実にもつながる。『食』と『ケア』と『エネルギー』で充実した安心のよりどころを目指している」と野村代表は、将来を見据える。

3つの事業者が互いに信頼し、3本の矢を一つにして、あいとうふくしモールは、地域の仲間と膨らませた「妄想」を少しずつ現実に変えていく。



安心して暮らせる拠点を目指す「あいとうふくしモール」